

中瀬 有紀



Liba Vaynberg and Josh Marcantel in *Black Milk*

『Black Milk』は2003年にロンドンのRoyal Court Theatreで初演された、ロシア人劇作家 Vassily Sigarev (英語翻訳 Sasha Dugdale) による芝居です。七月半ばから八月頭まで、オフ・ブロードウェイ劇場のEast 13th Street Theatreで公演され、私はその照明デザインを担当しました。

もともと『Black Milk』は今年四月にコロンビア大学構内のShapiro Theatreにて、同大学大学院で演出を学ぶベネズエラ出身のMichel Hausmannによってニューヨーク・プレミア公演が行われました。その時に声がかかったグルジア出身の美術デザイナーIka Avaliani、ラトビア出身の衣装デザイナーLiene Dobrajaと私の三人は、ニューヨーク大学大学院でデザインを学ぶ学生です。Shapiro Theatreでの公演が非常に好評であったことから、私たちは同作品をオフ・ブロードウェイ劇場で公演する機会を得ました。

East 13th Street Theatreでのプレビュー公演五日間とその後約二週間の本公演のために費やした劇場での準備期間は四日間です。現場初日は8時半から23時まで美術、照明、音響の搬入と仕込みに費やし、二日目は9時から15時まで美術チームの作業と照明フォーカスが同時に進行し、15時

オフ・ブロードウェイデビュー

からは演出家と役者とともにステージングが21時まで続きました。その後プレビューオープニングまでの二日間は、午前中を美術、照明、音響の直し、午後にテクニカルリハーサルとドレスリハーサルが行われました。

間口四間、奥行き五間の舞台は三方を客席に面し、舞台床からグリッドまでの高さは約三間二尺です。小屋器材はETCソースフォー15台と500wフレネル8台、ETC 24チャンネル2.4k SensorデイマーとETC Acclaim照明卓のみでしたので、ほとんどの器材と調光設備をレンタルしました。アメリカでの器材レンタルに関しては日本とほぼ同じ値段という印象です。マスターエレクトリシャンを1人、そして仕込みと撤収のみエレクトリシャンを3人雇いました。ユニオンに所属していない劇場での制作でしたので、私を含む全ての照明スタッフはユニオンに所属している必要がありませんでした。

今回の経験を元に得た教訓は「ハニーとビネガー (酢)」のバランスです。日本風と言うと「飴と鞭」ですが、照明チーム内の結束を導くには優しさと厳しさの両方が必要でした。内面を見抜く達人で構成されている日本社会と異なり、アメリカ社会で生きるには笑顔と一緒に発言と主張と「酢」が不可欠です。